

かぜぐみ

① プールあそび

7月からスタートし、2ヶ月間プール遊びを楽しんできました。初めは顔に水がかかると大抵怖がり、かぜ組には今年から初めての幼児用の大きいプールに入ることもあって、プールの端で固まっ様子を伺う姿もあって、経験を重ねるごとに大胆に遊ぶ姿が見られるようになってきました。友だちの姿も見て「ほくも!」「わたくもみこ!」とワニ泳ぎでぐるぐる回ったり、仰向けになって気持ち良さそうに浮かんだり、顔を水につけてみたり、洗濯機遊びではプール内を元気に走り回り友だちと一緒に笑い合っています。顔に水がかかると大抵怖がり、かぜ組の子も、保育者のワニ泳ぎの背中に乗って水に溶け合うことも楽しんで、プールの深さが浅い月には自分でもワニ泳ぎをしたり、ホスから出る水のトナリやフーをくわたりして遊ぶ姿も見られます。思いきり笑って、身体を動かして、心も身体も開放的に遊ぶ楽しかったプール遊びの経験を土台にして、身体を動かすことに楽しませ友だちと一緒に楽しい時間を共に過ごす喜びを感じ、さらに色々な活動に興味を持ってほしいと思います。

② いっしょにあそぼう

室内の自由あそびの中では、たいよう組の保育室にある柱登りがプールの土台になっています。登れるようにしようと強い思いを持って取り組む姿があり、友だちの姿を見て刺激を受けて挑戦してみたいという姿もあり、意欲に溢れている子どもたちです。ままごころでは、この遊びの「おもしろい」場面が以前より増えてきました。「つもり」がはまりすぎて、友だちとイメージを共有して遊ぶ姿も見られるようになってきています。「おちゃん、一緒に遊ぼう!」「テオ作る!」と友だちを誘ったり、「よーせー!」と参加したり、「ここはお客にしよか!」「おかいものいってきます!」「ちよこまて!手洗ひかぎご飯やで!」「お祈りします。うたごころアメン」と日常の会話や経験を基にしたから、友だちと楽しむ姿があります。日によってお医者さんごころだったり、警察ごころだったり様々で、やりがいを感じ、このように思いが友だちとぶつかり合っていることもありますが、その水以外の思いを伝えて納得するまで、仲良く遊ぶ姿勢があります。一人ひとりの思いをその都度しっかりと出せるように見守りつつ、相手の思いも知り、お互いに理解し合えるように、考え合い、共感していきたいです。

- ★ プール遊びは終わりましたが、暑い日には続き水遊びやシャワーをします。タオルを引出し入れしておいてください。
- ★ 子どもたちの生活リズムを整えるため、夜9時頃には寝て、朝7時までには起きる習慣をつけましょう。起きるのかわるはるで昼寝はしない寝つけず、起きるが、また夜寝る時間が遅くなるという悪循環になってしまいます。

かぜ・そら・たいようぐみ クラスだより

〒町まぶね隣保園 **8月**

夏の暑さも和らぎ、気持ち良い風が感じられるようになりました。この夏、水セリ、寒天や片栗粉等に角切れ、バと身体を開いてあそんできた子どもたちは、一まわり大きくなったように感じます。9月は運動会に向けて、たくさん身体を動かして遊び「できた!」を積み重ねていきたいと思っています。

そらぐみ

8月はお盆休みもあり、各クラス合同で過ごすことも多い月でもありました。その中で異年齢の子どもたちが一緒に生活し遊ぶ中で、そらぐみは特にかぜぐみに対してお兄さんやお姉さんのように、または意識している様子が見られたように思います。同じクラスの中でも、子ども同士で注意があったり教えてあげたりする姿が多く見られるようになりましたが、しっかりしてくる分、口調がどうしてもきつくなってしまい、こうしたいという気持ちもあることで、相手との思いの違いも多いです。相手の気持ちに少しずつ気づき始めているこの時期は特に大人がその子どもの気持ちを受けとめながら、相手の思いも伝えて、うまく援助をしていかなければと思います。

またよく子どもから「○○くん(ちゃん)が△△したから言って!」と保育者に伝えることがあります。話を聞きますが、その前に「自分で思いを伝えてみたの?」と聞きます。保育者も、もちろん話しますが、まずは自分の言葉で相手に思いを伝えてほしかったからです。一人ひとりが思っていることを自分の言葉にして伝えることはすぐには難しいかもしれませんが、経験をどんどん積み重ねていけたらいいなと思います。

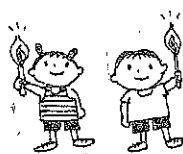
楽しかったプール

楽しかったプールも26日に終わりました。水の中での子どもたちは生き生きと遊んでいました。激しく水しぶきをあげる子どもや泳ぎたい子ども、端の方でゆっくり水につかっている子どもや、あまりの激しさに外に出ようとする子どもなど様々でした。楽しみ方はそれぞれでしたがみんなが水に入り、気持ちいいと感じている姿が見られました。また、感触あそびや色水あそびをした時には、感触を楽しみながらも、あるものに見立て、工夫して遊んでいました。ジュースやゼリーを作って並べると、どんどんお客さんがやってきて買っていきます。色水を混ぜて新しい色をいっぱい作っていました。

来月から、運動会に向けての活動も増えていきます。日ごろから身体を動かし、遊ぶのが好きな子どもたちなので、戸外での活動の中で身体を動かし、楽しめる遊びをたくさんしていきたいと思っています。

たいようぐみ

みんなが楽しみにしていた「お泊まりほいく」がいよいよ真近に迫ってきました。保護者の方と離れ、友だちや保育者と一晩過ごすという経験は、もちろんドキドキするものです。子どもたちも不安な表情を見せたり、不安を口にする子もおり、初めにお泊まり保育の話をした時(おかあさんと「お泊まり保育はなれたくない」と涙する子どもがいました。一番の不安のタネは、慣れない場所へ行くという環境の変化に絡んで「見通しの立たなさ」だと思います。Tシャツを作ったり、荷物の確認をしたり、ダンスの練習をしたり、お泊まり保育ごころをして川あそびやキャンプファイヤーをすることを知らせている中で、2日間どんな事をするのか、一人ひとりイメージがわいてきたようです。



子どもたちの方から、「せんせい、いくのたのしめ!!」「さかなもむしもつかまえような!」と楽しみにする声がたくさん聞こえてくるようになりました。キャンプファイヤーでうたう「キャンプだホイ」は子どもたちが意見を話し合って振り付けを考え「ここはこんなふうにしよ!」「あー!それ、うたにびび、たこり!」と盛り上げています。お泊まり保育のねらいは「自立」と「協調」です。お風呂に入ったり、自分の洋服を畳んだり、「自分のことは自分で」これまでの経験の積み重ねを活かして、自信に変えていきたいと思っています。



そして、クラスの友だちと自然の中で一緒に考え、話し、遊び、自覚することを通してみんなが感じる喜びや達成感も味わってほしいです。自然にたくさん触れ、お泊まり保育でしか出来ない経験をして、楽しい思い出を作り、ひとまわり大きくなって帰ってきます。